

幼児教育実習における経験録(試案)

Recorded Experiences for Pre-Service Practical Training in Kindergarten teachers

開 仁 志
Hitoshi HIRAKI

〈要旨〉

看護師養成、介護福祉士養成等では「経験録」が活用されている。経験録は、学生が実際に経験した内容をチェックリスト方式で確認し、後の学びに生かしていくものである。経験録があることで、学生自身が、課題や認識を明確にできると考える。

筆者は、過去に経験録を保育分野に応用し、保育士養成の保育実習における経験録(試案)の作成をしている(開, 2014)。本研究は、その保育実習における経験録(試案)を基にし、幼稚園教員養成の幼児教育実習における経験内容を確認し振り返りを促すための経験録(試案)を検討し作成することを目的としている。幼稚園教員として求められる力としては、幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書(2002)「幼稚園教員の資質向上について―自ら学ぶ幼稚園教員のために―」と、全日本私立幼稚園連合会教育研究委員会による「保育者としての資質向上研修俯瞰図」を参考にして、幼児教育実習における経験録の試案を作成した。今後は、実際の幼児教育実習における振り返りに使用し、経験録の項目等についてその妥当性を検証する必要がある。

〈キーワード〉

幼稚園 教育実習 経験録 振り返り

1 問題

看護師養成、介護福祉士養成等では「経験録」が活用されている。経験録は、学生が実際に経験した内容をチェックリスト方式で確認し、後の学びに生かしていくものである。

例えば、看護師養成では、杉本ら(2006)が経験録を基に、「基本的な看護技術の水準」における経験度からみた看護技術の検討を行い⁽¹⁾、郡司ら(2006)は成人看護実習における看護基本技術の経験状況を把握するため経験録を分析し⁽²⁾、成田ら(2007)は母性看護学実習における母性看護技術の経験状況を明らかにしている⁽³⁾。荒川ら(2009)は、基礎看護技術実習における看護技術の経験の実態を経験録を基に明らかにし、1年次の基礎看護技術実習での結果を踏まえた上で2年次以降の演習や実習で学生が技術を経験する機会を設けることが、基礎看護技術の向上に向けた有効な手段と考えられると結論付けている⁽⁴⁾。

介護福祉士養成では、井上ら(2013)が、卒業直前の学生における経験録の分析を試み、当時使用していた経験録の技術項目の細目と到達レベルを再検討する基礎資料としている⁽⁵⁾。

この経験録を保育分野に応用することで、看護師養成、介護福祉士養成におけるように、実習の振り返りを後の学びに生かす一助となると考えられる。

保育分野で経験録を作成し、活用した先行研究はあまり見当たらない。そこで、筆者は、保育士養成の保育実習における経験録を、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長による通知、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」で示された教科目の教授内容⁽⁶⁾、『実習生のための自己評価チェックリスト第2版』(2011)⁽⁷⁾などを基に試案の作成を試みた⁽⁸⁾。ここでは、保育士養成における必修科目「保育実習指導Ⅰ」で使用することを想定し、「保育実習Ⅰ」の中の「保育所実習(2単位)」での経験内容を振り返るための経験録(試案)を作成した。しかし、この経験録は、あくまでも保育士養成の保育実習における経験録(試案)である。

一方、教員養成に関して、学びを振り返るツールとしては、「履修カルテ」の活用が考えられる。履修カルテは、①履修状況の把握、②必要な資質能力に関する評価の2種類が示されている⁽⁹⁾。前者は教職関連科目を履修したか否か、後者は資質能力が身に付いているか否かを問うものである。

「経験録」は、履修の有無を問うのでもなく、資質能力が身に付いているか否かを評価するものでもない。基本的には実習の中で経験した内容の有無を問うものである。学生に不足している「経験」は何か明らかにし、今後の学習に生かすことができる点で、幼稚園教員養成の幼児教育実習における経験録作成をする意義があると考ええる。

2 目的

幼稚園教員養成の幼児教育実習における経験内容を確認し振り返りを促すための経験録（試案）を検討し作成することを目的とする。

3 方法

看護師養成、介護福祉士養成における経験録を基に作成した保育士養成の保育実習における経験録（試案）¹⁰⁾の考え方を基に、幼稚園教員養成の幼児教育実習における経験録（試案）を作成する。

経験録の大項目・中項目作成には、幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書（2002）「幼稚園教員の資質向上について―自ら学ぶ幼稚園教員のために―」¹¹⁾と、全日本私立幼稚園連合会教育研究委員会による「保育者としての資質向上研修俯瞰図」¹²⁾を基に項目を設定する。

小項目については、全日本私立幼稚園連合会教育研究委員会による「保育者としての資質向上研修俯瞰図」のⅠ初級の内容¹³⁾、『実習生のための自己評価チェックリスト第2版』（2011）¹⁴⁾及び、保育士養成の保育実習における経験録（試案）¹⁵⁾を基に項目を設定する。

4 結果

4-1 経験録作成

看護師養成、介護福祉士養成共に、技術項目と卒業時の到達度を示し、それを基に経験録を作成している。経験録の考え方は、以下のとおりである¹⁶⁾。

オリエンテーション項目と保育技術に関する項目に分かれ、到達目標を「説明」「見学」「経験」の3つに区分し、段階を踏まえて習得する。

- (1) 説明 指導者あるいは担当教員からそれぞれの項目について説明を受け、理解できた。
- (2) 見学 指導者あるいは担当教員からの説明を受け、実践を意図的に見学した。
- (3) 経験 説明、見学を踏まえた上で自分で
 - A 指導者あるいは担当教員と共に実践した。

- B 指導者あるいは担当教員の確認のもと一人で実践した。

4-2 大項目の設定

- (1) 幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書（2002）「幼稚園教員の資質向上について―自ら学ぶ幼稚園教員のために―」

幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書（2002）「幼稚園教員の資質向上について―自ら学ぶ幼稚園教員のために―」で示されている「幼稚園教員に求められる専門性」のうち重要とされるものを示す¹⁷⁾。

- ①幼児理解・総合的に指導する力
- ②具体的に保育を構想する力、実践力
- ③得意分野の育成、教員集団の一員としての協働性
- ④特別な教育的配慮を要する幼児に対応する力
- ⑤小学校や保育所との連携を推進する力
- ⑥保護者及び地域社会との関係を構築する力
- ⑦園長など管理職が発揮するリーダーシップ
- ⑧人権に対する理解

- (2) 全日本私立幼稚園連合会教育研究委員会による「保育者としての資質向上研修俯瞰図」

全日本私立幼稚園連合会教育研究委員会による「保育者としての資質向上研修俯瞰図」では、大項目を以下の通りに分けている¹⁸⁾。

- A 子どもの人権
- B 望ましい教師像
- C 教育理論
- D 幼児理解
- E 保育の計画と実践
- F 地域、家庭支援、教育相談

- (3) 大項目の整理

上記両者の項目を照らし合わせ、共通と考えられるものを整理して新項目を筆者なりに作成すると、以下の5項目になる。なお、丸数字は幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書（2002）の幼稚園教員に求められる専門性、アルファベットは全日本私立幼稚園連合会教育研究委員会による「保育者としての資質向上研修俯瞰図」の大項目を表している。

1) 幼児理解

- ①幼児理解・総合的に指導する力、④特別な教育的配慮を要する幼児に対応する力、C教育理論、D幼児理解

に相当する。

2) 保育の計画と実践

②具体的に保育を構想する力，実践力，C教育理論，E保育の計画と実践に相当する。

3) 専門職としての役割

③得意分野の育成，教員集団の一員としての協働性，⑦園長など管理職が発揮するリーダーシップ，B望ましい教師像に相当する。

4) 地域、家庭との連携

⑤小学校や保育所との連携を推進する力，⑥保護者及び地域社会との関係を構築する力，F地域，家庭支援，教育相談に相当する。

5) 子どもの人権理解

⑧人権に対する理解，A子どもの人権に相当する。

4-3 中項目の設定

幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書（2002）「幼稚園教員の資質向上について―自ら学ぶ幼稚園教員のために―」においては，中項目以下の設定は無い⁹⁹，全日本私立幼稚園連合会教育研究委員会による「保育者としての資質向上研修俯瞰図」の中項目を基に作成することとする¹⁰⁰。先に作成した5つの大項目ごとに中項目を示すと以下の計13項目になる。

(1) 「幼児理解」に関する中項目

①子どもの発達理論，②子どもの育ちと記録のとり方，③特別支援教育（含広汎性発達障がい）の3項目となる。

(2) 「保育の計画と実践」に関する中項目

①保育実践論，②教育要領と指導計画，③保育の実践，④自己点検・自己評価と研修の4項目となる。

(3) 「専門職としての役割」に関する中項目

①教師の役割の1項目となる。

(4) 「地域、家庭との連携」に関する中項目

①保護者とのコミュニケーション，②家庭教育における保護者支援，③地域との連携の3項目となる。

(5) 「子どもの人権理解」に関する中項目

①子どもの人権，②子どもの健康と安全の2項目となる。

4-4 小項目の設定

小項目の設定については，実習生が実際に経験をイメージできるような具体的な項目を設定する。基本的に，保育士養成の保育実習における経験録（試案）の内容の小項目¹⁰¹において，幼稚園でも置き換え可能なものに関しては転用したが，以下の点については，幼稚園教員養成の幼児教育実習に適応させるため，変更した。

- ・小項目を当てはめる箇所については，本研究で作成した幼稚園教員養成の幼児教育実習における経験録（試案）の大項目・中項目を適用する。
- ・「保育者」は「教師」，「職員」は「教員」とする。
- ・「乳児の表情や泣き声の読み取り」は，「幼児の表情や泣き声の読み取り」に変更する。
- ・「抱っこ」「おんぶ」「授乳」「喃語への応答」「指差しへの応答」については，幼児期という発達を考え，小項目を設定しない。
- ・「午睡」「寝かしつけ」「おむつ交換」「おもらしをした時の配慮」については，満3歳児クラスがある幼稚園を考慮し，小項目として残す。
- ・「養護の記録」は，幼稚園教育要領には「養護」という記載が無い¹⁰²ため，「生活の記録」の項目とする。
- ・「保育課程の理解と活用の実際」については，「教育課程の理解と活用の実際」の項目とする。
- ・「保育の計画と保育内容の関係」は，「指導計画と保育内容の関係」の項目とする。
- ・(9) 保護者とのコミュニケーション，(10) 家庭教育における保護者支援，(11) 地域との連携の中項目に関する小項目は，保育士養成の保育実習における経験録（試案）には存在しなかったため，全日本私立幼稚園連合会教育研究委員会による「保育者としての資質向上研修俯瞰図」のI初級の内容，『実習生のための自己評価チェックリスト第2版』（2011）¹⁰³を基に小項目を設定した。

以下13の中項目ごとに小項目を示す。

(1) 「子どもの発達理論」に関する小項目

①配属クラスの子どもの発達過程，②一人ひとりの発達過程

(2) 「子どもの育ちと記録のとり方」に関する小項目

①一人ひとりの特徴，②日々の様子の違い，③内面の理解，④育ちの理解，⑤子どもの様子の記録，⑥5領域の記録，⑦生活の記録

(3) 「特別支援教育（含広汎性発達障がい）」に関する小項目

①障がいのある子どもの発達過程，②障がい児保育の理

解と保育の展開, ③障がいのある子どもとのかかわり

(4) 保育実践論に関する小項目

①実習園の保育方針の理解と保育の展開, ②一人ひとりの名前の把握, ③一人ひとりへの声かけ, ④一人ひとりの話の傾聴, ⑤一人ひとりとの会話, ⑥一人ひとりの居場所, ⑦動線に配慮した環境, ⑧体を十分に動かして遊べる環境, ⑨探索活動が十分にできる環境, ⑩興味, 関心が高まる魅力的な環境, ⑪一人遊びがじっくりとできる環境, ⑫友達とのかかわりが生まれる環境

(5) 教育要領と指導計画に関する小項目

①幼稚園教育要領の理解と保育の展開, ②教育課程の理解と活用, ③指導計画の理解と活用, ④指導計画と保育内容の関係, ⑤保育のねらいと内容との関係, ⑥登園, ⑦身支度, ⑧遊び, ⑨片づけ, ⑩集まり, ⑪おやつ, ⑫食事, ⑬衣類の着脱, ⑭排泄, ⑮午睡, ⑯年齢別活動, ⑰異年齢活動, ⑱降園

(6) 保育の実践に関する小項目

①手遊びの指導, ②絵本の読み聞かせ, ③紙芝居の読み聞かせ, ④ペープサート, ⑤パネルシアター, ⑥エプロンシアター, ⑦歌遊び, ⑧ピアノの演奏, ⑨さまざまな楽器の演奏, ⑩ごっこ遊び, ⑪言葉遊び, ⑫絵画表現, ⑬造形表現, ⑭身体遊び, ⑮リズムを伴った遊び

(7) 自己点検・自己評価と研修に関する小項目

①実習目標と反省・評価の記録, ②教師(指導担当教員)の助言, 指導の受け止め, ③教師(指導担当教員)からの注意や指摘の受け入れ

(8) 教師の役割に関する小項目

①実習生の自己紹介, ②ふさわしい身だしなみ, ③明るく元気な挨拶, ④子どもの保育, ⑤子育て支援, ⑥教師の一日の業務内容の把握, ⑦報告・連絡・相談, ⑧指示された仕事の責任ある遂行, ⑨保育者の行動の背景にある意図について, 質問し, 理解, ⑩自分の意見をもった教師との話し合い, ⑪チーム保育

(9) 保護者とのコミュニケーションに関する小項目

①登園時の保護者とのかかわり, ②降園時の子どもの様子の伝え方, ③家庭への連絡(連絡帳等)

(10) 家庭教育における保護者支援に関する小項目

①生育歴と生育環境への理解, ②その子の良さの発見, ③家庭教育への理解, ④虐待ネグレクトの理解, ⑤ほめ方,

叱り方の指導援助

(11) 地域との連携に関する小項目

①地域社会との交流の意義と実践, ②幼保小の連携

(12) 子どもの人権に関する小項目

①分かりやすい温かな言葉, ②気持ちの受け止め, ③セカす言葉, 制止する言葉を不必要に用いない, ④性差への先入観による固定的な対応をしない, ⑤自分の意見を言うことのできる雰囲気づくり, ⑥他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるような雰囲気づくり

(13) 子どもの健康と安全に関する小項目

①視診, ②一人ひとりの健康状態の確認, ③幼児の表情や泣き声の読み取り, ④スキンシップ, ⑤一人ひとりの服装, 頭髪, 皮膚, 爪などの清潔さ, ⑥実習生自身の服装, 頭髪, 皮膚, 爪などの清潔さ, ⑦事故やけがの発生の防止, ⑧事故やけがの発生時の報告, 対応, ⑨おむつ交換, ⑩おもらしをしたときの配慮, ⑪寝かしつけ, ⑫衣類の着脱への働きかけ, ⑬手洗いやうがいへの働きかけ, ⑭大型遊具等の使用方法, 順番の伝え方, ⑮ハサミやナイフなどの道具の使い方

5 考察

本研究では, 幼稚園教員養成の幼児教育実習における経験内容を確認し振り返りを促すための経験録(試案)を検討し作成することを目的としていた。

検討の結果, 経験録(試案)として大項目としては5項目, 中項目としては13項目, 小項目としては102項目を設定した。これを一覧表として示したものが, 表1となる。

幼稚園教員養成の幼児教育実習における経験録としては, 他に例が無いことから, この経験録(試案)を基にして教育実習を振り返る一助となるのではと考える。

しかし, あくまでも試案であるため, 項目の中には重複するものや, 過不足があることが考えられる。さらに, 小項目については, かなり具体的なものから抽象度が高いものまであり, レベルに差があることが課題として残っている。今後は, 実際の幼稚園教員養成の幼児教育実習における振り返りに使用し, 経験録の項目等についてその妥当性を検証する必要がある。また, 実習生, 実習現場の指導担当教員, 養成校教員の立場など様々な視点から検討していくことも必要になってくるであろう。

表1 幼児教育実習における経験録（試案）

実習項目			説明	見学	経験
幼児理解	子どもの発達理論	①配属クラスの子どもの発達過程			
		②一人ひとりの発達過程			
	子どもの育ちと記録のとり方	①一人ひとりの特徴			
		②日々の様子の違い			
		③内面の理解			
		④育ちの理解			
		⑤子どもの様子の記録			
		⑥5領域の記録			
		⑦生活の記録			
	広汎性発達障害がい	①障がいのある子どもの発達過程			
		②障がい児保育の理解と保育の展開			
		③障がいのある子どもとのかかわり			
保育の計画と実践	保育実践論	①実習園の保育方針の理解と保育の展開			
		②一人ひとりの名前の把握			
		③一人ひとりへの声かけ			
		④一人ひとりの話の傾聴			
		⑤一人ひとりとの会話			
		⑥一人ひとりの居場所			
		⑦動線に配慮した環境			
		⑧体を十分に動かして遊べる環境			
		⑨探索活動が十分にできる環境			
		⑩興味、関心が高まる魅力的な環境			
		⑪一人遊びがじっくりとできる環境			
		⑫友達とのかかわりが生まれる環境			
	教育要領と指導計画	①幼稚園教育要領の理解と保育の展開			
		②教育課程の理解と活用の実際			
		③指導計画の理解と活用の実際			
		④指導計画と保育内容の関係			
		⑤保育のねらいと内容との関係			
		⑥登園			
		⑦身支度			
		⑧遊び			
		⑨片付け			
		⑩集まり			
		⑪おやつ			
		⑫食事			
		⑬衣類の着脱			
		⑭排泄			
		⑮午睡			
		⑯年齢別活動			
		⑰異年齢活動			
		⑱降園			
	保育の実践	①手遊びの指導			
		②絵本の読み聞かせ			
		③紙芝居の読み聞かせ			
		④ペープサート			
		⑤パネルシアター			
		⑥エプロンシアター			
		⑦歌遊び			
		⑧ピアノの演奏			
		⑨さまざまな楽器の演奏			
		⑩ごっこ遊び			
		⑪言葉遊び			
		⑫絵画表現			
		⑬造形表現			
保育の計画と実践	保育の計画と実践	⑭身体遊び			
		⑮リズムを伴った遊び			
		①実習目標と反省・評価の記録			
		②教師（指導担当教員）の助言、指導の受け止め			
		③教師（指導担当教員）からの注意や指摘の受け入れ			
	専門職としての役割	①実習生の自己紹介			
		②ふさわしい身だしなみ			
		③明るく元気な挨拶			
		④子どもの保育			
		⑤子育て支援			
		⑥教師の一日の業務内容の把握			
		⑦報告・連絡・相談			
		⑧指示された仕事の責任ある遂行			
		⑨保育者の行動の背景にある意図について、質問し、理解			
		⑩自分の意見をもった教師との話し合い			
		⑪チーム保育			
	地域、家庭との連携	①登園時の保護者とのかかわり			
		②降園時の子どもの様子の伝え方			
		③家庭への連絡（連絡帳等）			
		①生育歴と生育環境への理解			
		②その子の良さの発見			
	子どもの人権理解	③家庭教育への理解			
		④虐待ネグレクトの理解			
		⑤ほめ方、叱り方の指導援助			
		①地域社会との交流の意義と実践			
		②幼保小の連携			
	子どもの健康と安全	①分かりやすい温かな言葉			
		②気持ちの受け止め			
		③せかす言葉、制止する言葉を不必要に用いない			
		④性差への先入観による固定的な対応をしない			
		⑤自分の意見を言うことのできる雰囲気づくり			
		⑥他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるような雰囲気づくり			
		①視診			
		②一人ひとりの健康状態の確認			
		③幼児の表情や泣き声の読み取り			
		④スキンシップ			
		⑤一人ひとりの服装、頭髮、皮膚、爪などの清潔さ			
		⑥実習生自身の服装、頭髮、皮膚、爪などの清潔さ			
		⑦事故やけがの発生の防止			
		⑧事故やけがの発生時の報告、対応			
		⑨おむつ交換			
		⑩おもらしをしたときの配慮			
		⑪寝かしつけ			
		⑫衣類の着脱への働きかけ			
		⑬手洗いやうがいへの働きかけ			
		⑭大型遊具等の使用方法、順番の伝え方			
		⑮ハサミやナイフなどの道具の使い方			

引用・参考文献

- (1) 杉本幸枝・土井英子・中山亜弓(2006)「基本的な看護技術の水準」における経験度からみた看護技術演習の検討, 新見公立短期大学紀要第27巻, 57-65.
- (2) 郡司理恵子・安藤悦子・岡田純也・川波公香・浦田秀子・寺崎明美(2006)成人看護学における技術教育についての検討—成人看護学実習における看護基本技術の経験状況から—, 保健学研究19(1), 27-35.
- (3) 成田恵美子・渡邊竹美・糠塚亜紀子・篠原ひとみ・兒玉英也(2007)母性看護学実習における学生の看護技術経験の認識に関する調査, 秋田大学医学部保健学科紀要15(1), 58-67.
- (4) 荒川千秋・神原裕子・吉野由紀江・佐藤亜月子・杉本龍子・関根龍子(2009)基礎看護技術実習における看護技術の経験の実態—平成18年度と平成19年度の看護技術経験録から—, 目白大学健康科学研究第2号, 73-80.
- (5) 井上理恵・石橋郁子・松井紀久子・関好博・西井啓子(2013)施設介護実習での到達度に関する研究—経験録の項目をもとにした調査—, 富山短期大学紀要第48巻, 1-15.
- (6) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知(2013)「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」.
- (7) 『実習生のための自己評価チェックリスト』編纂委員会(代表民秋言)(2011)実習生のための自己評価チェックリスト第2版, 萌文書林.
- (8) 開仁志(2014)保育実習における経験録(試案), 富山国際大学子ども育成学部紀要第5巻.
- (9) 文部科学省, 教職課程認定申請の手引き及び提出書類の様式等について, 05 参考, 履修カルテ(例)について, (教職課程認定申請の手引き(平成26年度改訂版)抜粋)
- (10) 前掲(8).
- (11) 幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書(2002)「幼稚園教員の資質向上について—自ら学ぶ幼稚園教員のために—」.
- (12) 全日本私立幼稚園連合会教育研究委員会「保育者としての資質向上研修俯瞰図」.
- (13) 同上(12).
- (14) 前掲(7).
- (15) 前掲(8).
- (16) 石橋郁子・井上理恵・関好博・西井啓子・松居紀久子・石吾明子(2011)介護実習の手引き, 富山短期大学福祉学科.
- (17) 前掲(11).
- (18) 前掲(12).
- (19) 前掲(11).
- (20) 前掲(12).
- (21) 前掲(8).
- (22) 前掲(7).